

発行／喜界町議会 編集／議会広報編集委員会
〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地
TEL:0997(65)1115・FAX兼用



ボランティア活動(中間ナン浜の清掃)

主な内容

常任委員会報告 2

一般質問に5名が登壇 4

諸般の報告 10

読者の声・編集後記 12

読者の声



思照也【佐手久区長】

先日、私達の集落では六月灯がありました。旧暦の六月十五日です。これと言った遊びがない先人達が暮らした遙か昔、数少ない娯楽のひとつだったのではないでしょうか。現在は、多様化する価値観、またインターネットを通じて瞬時に情報を駆けるグローバル社会にあって、島の未来を考える時、一次産業が担う役割は存在を増していく事と思います。

最近六次産業がさげばれています。これからは、生産から加工・販売までのビジョンを生産地自らが構築していく事が求められます。担い手は、現役世代は言うまでもありませんが少子高齢化が進む中、島に住むすべての町民が主役です。



佐手久集落六月灯

はばたこう喜界島 未来へ向けて

編集後記

さとうきびの刈り取りも終了し農家には、活気が感じられるが過去の二年続きの不作があっただけにその事を思う。過去最低の五万七千六百トンでした。二十四／二十五年期も五万七千六百六トンであった。今期が八万トンあまりであったがメイチュー被害や春先の低温や夏場の干ばつと台風がキビの成長をはばむ自然の害敵である。このような条件をクリア出来れば収穫大になる。又年がらもあるといえる。

七月十三日には梅雨もあけ暑い毎日が続く時期です。時に気になるTPPに関する記事が目に入った。砂糖や畜産など五品目をどれだけ守りきれるかは、今後を見守るだけである。本町議会も関税引き下げの反対の意見書を送り出してあります。本町は、農業立島で経

済的な各分野で多種多様な日々を過ごしております。これまでに整備をして来ましたが地下ダムによるスプリンクラーによる散水による効果的に機能している現在であります。約八百町歩が散水不備であります。農林水産省の阿べノミクスが地方に波及する事を期待するところです。

小粒でも きらりと

かがやく
いいしま

広報編集委員長 里村忠弘

常任委員会報告

平成二十六年第二回定例会は、六月十八日から二十四日までの七日間開催されました。

初日は、一般質問（議員五名登壇）、平成二十五年喜界町一般会計補正予算外十件を専決処分し、繰越明許費繰越計算書（一般会計、簡易水道事業特別会計、公共下水道事業特別会計）三件の報告がありました。

平成二十六年一般会計補正予算外二件については、各常委員会に付託しました。

最終本会議には、平成二十六年喜界町一般会計補正予算外二件を可決しました。追加提案された、物品売買契約及び工事請負契約二件は、原案のとおり可決し、発議四件を採択し関係先へ送付しました。

平成26年度 一般会計補正予算は 1億8,114万円を追加して 58億7,667万円に

総務文教委員会

総務文教常任委員長 外内千里

一般会計

【歳入について】

総務費国庫補助金でがんばる地域交付金、七千二百九十五万四千円、公共施設整備基金繰入金の五千二百万円、一般コミュニティ助成事業の四百四十万円です。県支出金の教育費委託金の五十万三千円の減額は、事業の県への移管によるもので、スクールカウンセラー配置事業の減額、活用事業委託金の減額は回数削減によるものです。財政調整基金繰入金の六百四十八万三千円の減額は積戻しするものです。

【歳出について】

総務費の報酬費百五十万四千円の増額、一般管理費の一千万円は庁舎玄関前の改修工事、諸費の四百四十万円はコミュニティ助成事業で、対象集落は蒲生と西目集落で、それぞれ二百万円と二百四十万円です。商工費で観光費の五十五万円はスグラビーチの電気配

線の開閉器の取替えと園内陥没箇所の修繕費です。土木費の道路維持費の一千万円は、がんばる地域交付金事業で行うもので対象地区は、湾、荒木、川嶺、中里、志戸桶の道路舗装をします。

教育費の事務局費の委託金四百五十万円は小学校、幼稚園を含む工事の設計費二百五十万円と管理費の二百万円、工事請負費の四百三十万円は閉校した学校のメモリアルルームを、公民館旧館の部屋を改造し整備するものです。同じく小学校費の喜界小学校体育館補修工事費百九十一万円、早町小学校分で一千六百五十四万円、のぞみ幼稚園分で五十八万円となっています。

社会教育費の図書館費百五十六万六千円は、図書館開館三十周年の記念行事に関するもので、講師旅費、謝金、関係者の旅費、記念誌、記念モニュメントに掛かるものです。

保健体育費の四千七百六十二万四千円は町総合グラウンド改修費で、二十五年年度の施行が困難であったため、公共

した。

総合グラウンド改修工事の事業内容について、消防分署側の階段の手すり整備も行うと聞いていたがどの様になっているのかの質疑に、今回は予算が大幅にオーバーしたため予算計上を見送り、今後の事業で検討したいとの答弁でした。

産業福祉委員会

産業福祉常任委員長 生駒弘

一般会計

【歳入について】

住民課関係は、諸収入の雑入、一千二百四十一万円の増額の内、小型家電引き渡し代一万円です。

産業振興課関係は、雑入の農業農村基盤整備負担金徴収分八百万円です。

保健福祉課関係は、民生費国庫補助金、五千七十七万一千円の増額は、臨時福祉給付金事業費補助金三千九百二十六万円、臨時福祉給付金事務費補助金百八十七万七千円、子育て世帯臨時特例給付金事業費補助金八百五十万円、子育て世帯臨時特例給付金事務費補助金百十三万四千円です。

【歳出について】

住民課関係は、住民生活費九十四万五千円の増額は、坂嶺生活館の修繕料です。塵芥処理費、百七十一万円の増額は、旅費、八万六千円、廃タイヤ排出処理委託料七十五万円、小型家電収集運搬委託料五十一万二千円、小型家

電収集機材材料費三十万円、庁用備品購入費、六万二千円は工具代です。

産業振興課関係は、農業総務費七十五万円の増額は、自動車購入費です。園芸振興費、四百九十一万八千円の増額は、アグリタウンのビニール張り替え工事費です。喜界町営農支援センター運営費、千三万七千円の増額は、人夫賃百二十六万九千円、トイレ修繕料二十九万四千円、営農支援センター改修料八百四十七万四千円は、支援センターのカーテン及びアンクルベンチ設置等の工事費です。加工販売施設運営費六十三万円の増額は、加工センターの販売及び喫茶店を結いグループに委託するものです。農地費、百六万一千円の増額は、農道舗装工事三百万円、公有財産購入費六万一千円を増額し、原材料費二百万円を減額するものです。

保健福祉課関係は、社会福祉総務費五千七百一十七千円の増額は臨時福祉給付金給付事業・子育て世帯臨時特例給付金事業に伴い賃金六十九万三千円、旅費二十五万円、啓発チラシ、パソコンソフト代十三万四千円、啓発用はがき代二十万八千円、パソコン四台分の購入費六十五万円、臨時福祉給付金給付事業、対象見込み数は3210名×一万円、加算分が1794名×五千円で四千七百七万円、子育て世帯臨時特例給付金事業費、一月一日現在で児童手当をもらっている850人が対象で八百五十万円、直営勘定操出金六百十五万四千円です。包括支援センター運営

事業費九十一万七千円の減額は、包括システム端末入替及びシステム改修費用百六十四万二千円を減額し消耗品費七万五千円、パソコン購入費六十五万円を増額するものです。

【質疑の主なものについて】

臨時福祉給付金と子育て世帯給付金の申請はいつからかとの質疑に七月からのことと。また該当者には連絡がいくのかとの質疑に、保健福祉課から申請書を送ることと。都会に住んでいる人の扶養家族になっている場合、把握出来るかとの質疑に対し、できないので申請時に扶養になっていないむねの申告書をだしてもらおうとの答弁でした。

特別会計

平成二十六年喜界町国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

【歳入について】

一般会計繰入金の六百十五万四千円です。

【歳出について】

一般管理費、五百五十九万四千円の増額は、七月から日、月、火、水、の四日間鹿児島から医師が来て診療所を開設するため九ヶ月分の人件費九十一万七千円の内訳は、事務備人料十九万八千円、看護師備人料五十万四千円、レポート請求にかかる事務備人料二十一万五千円です。旅費の七十一万七千円は、医師の診察に伴うものです。需用費五十万円は、水道設備の水漏れの



審査する産業福祉常任委員会



審査する総務文教常任委員会

修理代です。委託料二百五十七万円は、医療廃棄物処理委託料五万円、医師の委託料九ヶ月分二百五十二万円です。使用料及び賃借料の八十九万円はレポート電子カルテ一体型システムリース料です。

医療用機械器具費八万円は、機器の修繕料です。医療用消耗機材費五万円は、ガーゼ等医療用消耗品代です。医薬品衛生材料費四十三万円は、消毒液等医薬材料費三十五万円と生化学検査手数料八万円です。

【質疑の主なものについて】

医師は、もう決まっているのかとの質疑に、鹿児島からいつも検診関係で手伝って下さっている方です。診察申し込み出来るのはどのような方か、との質疑に、基本的には毎月薬の種類が決まっている方です。常勤の医師は、まだ募集をしているのかとの質疑に何件か当たってはいるが確保には至っていませんとの答弁でした。

町政のここが聞きたい

いっぱん質問

第2回定例会で5名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



乾 和夫 議員

一般廃棄物最終処分場に ついで

質問 最終処分場の平成二十六年当初予算に一般廃棄物の最終処分場建設への調査費が計上されているが、処分場計画の趣旨とその全体像を伺う。

答弁 町長答弁

焼却施設クリーンセンターから排出される一般廃棄物の焼却灰は、県外の処分場で埋め立て処分をしているが、一般廃棄物の処分は、市町村処理が原則であることから、県外への搬出が困難になりつつある。自前の管理型最終処分場を整備して生活環境の保全を図ることを目的としています。

質問 ① 調査の進捗状況をお尋ねいたします。

質問 ② 現在のクリーンセンター近くの土地が予定されているが、そこは西部水道中里水源地の近くにもあり、飲料

水の水質に影響が出るのではないかと、取水壁の内側であれば農業用水の水質にも関連してくるのではないかと、地下ダムの構造や本体の構造に影響はないか伺います。

答弁 ① 町長答弁

計画予定地として、当初は焼却灰などの処分物を運搬する必要がなく、焼却施設等とあわせて維持管理ができる利点を考慮して、現有焼却施設の隣接地を考慮して、湾中里地区昨年十二月には、湾中里地区で説明会を開催して、地域住民の皆様の理解が得られるよう努めたところです。説明会では、水源地の水質の影響についての意見も出され、国の遮水工の基準や関係法令を遵守し、安全性に十分配慮することなど、地質や周辺環境への影響調査をまず実施して理解を求めたところですが、技術面でなく集落の上にあるという場所を問題視され、調査候補地の洗い直しを求める意見も出されました。

これらの意見も踏まえ、海岸線での適地候補地の調査を改めて行い、生活環境にかかわる調査へ向けた準備を進めているところです。

質問 ⑤ 十五億円程度かかるといいますが、国、県の補助はどの

程度になるか。

答弁 住民課長答弁

焼却残渣など処分物の埋立て期間を十五年間程度としました。埋め立て容量は、約一万三千立方メートルです。調査設計から施設建設費までの概算事業費は、約一四億千百万円。財源内訳としては、国の交付金が対象事業費の三分の一で約四億二千三百三十万円。起債・調査費が平成二十六年から、一般廃棄物の最終処分場が過疎債の対象事業となり、充当率百%として約九億八千三百七十万円。元利償還金の七十%が地方交付税で措置されると、約二億九千九百十万円が町の負担になると思います。

答弁 町長答弁

本年度の進捗状況は、当初予算で、測量調査、地質調査、生活環境影響調査費として、四千七百七十五万円を計上しているが、建設予定地の見直し作業を行っているため、現在のところ執行には至っていない。

質問 第七期ごみ分別収集計画
ついで

答弁 処分場の耐用年数を延ばすためにも、分別の徹底によるごみの減量化、資源化、特に生ごみの分別は必須の課

政主導で構築できないか伺う

答弁 町長答弁

奄美大島や徳之島においては、世界自然遺産の登録に向けて、アマミノクロウサギなど希少動物を野生化した猫が捕食することから、飼い猫の適正な使用及び管理に関する条例などを制定して生態系の保全を図っています。本町においては、野猫の増加を危惧しているところですが、動物愛護法など関係法令からその対策に苦慮しているところです。犬・猫の不妊手術につきま

していただきたいと思っております。

生活安心・安全について

質問 犬・猫の不妊手術を受けるには、名瀬まで行かなくてはなりません。鳥でも不妊手術ができるようになったら、かと思いついた制度がないかという事です。

答弁 町長答弁

この計画は、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律に基づき、三年ごとに五年を一期とする容器包装廃棄物の分別収集に關して定める計画です。容器包装廃棄物のうち、スチール製容器、アルミ製容器、ガラス製容器、飲料用紙製容器、ペットボトル、プラスチック製容器が対象品目となっています。生ごみについては、本計画の対象となっておりませんが、生ごみの堆肥化などは廃棄物処理の重要課題と考えています。

現在、町内に廃棄物全般にわたる処理対策についてプロジェクトチームを立ち上げ、廃棄物処理の将来像などについて議論をさせています。生ごみの処理はその結果などを踏まえて検討したいと考えています。

答弁 町長答弁

この計画は、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律に基づき、三年ごとに五年を一期とする容器包装廃棄物の分別収集に關して定める計画です。容器包装廃棄物のうち、スチール製容器、アルミ製容器、ガラス製容器、飲料用紙製容器、ペットボトル、プラスチック製容器が対象品目となっています。生ごみについては、本計画の対象となっておりませんが、生ごみの堆肥化などは廃棄物処理の重要課題と考えています。

答弁 町長答弁

奄美大島や徳之島においては、世界自然遺産の登録に向けて、アマミノクロウサギなど希少動物を野生化した猫が捕食することから、飼い猫の適正な使用及び管理に関する条例などを制定して生態系の保全を図っています。本町においては、野猫の増加を危惧しているところですが、動物愛護法など関係法令からその対策に苦慮しているところです。犬・猫の不妊手術につきま

していただきたいと思っております。

答弁 町長答弁

学校給食における食物



生駒 弘 議員

質問 水環境課長答弁

地下水汚染の心配や農産物の販路促進の両面から、可能な限り化学肥料の使用を抑制していく必要がある。事業主体、コスト面など多くの課題はあるが、今後の検討課題としたい。

答弁 町長答弁

公共下水道・農業集落排水処理施設加入促進のための工事費助成については、本来は公共下水道事業で徴収することのできる受益者負担金を徴収していないこと、合併処理浄化槽設置者の建設費、管理費で格差があること、既に接続した人との不公平感をどうするかなど、クリアしなければならぬ検討課題が多分にあるので、現状では早急の実施は難しいところです。

質問 水質保全の観点から、

水質保全の観点から、

アレルギー対策についてお問い合わせいたします。

文部科学省の有識者会議が本年三月に取りまとめた最終報告では、平成二十二年に文科省が監修して発行された、学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドラインに基づき対応の徹底が必要不可欠であると改めて認識されるとともに、今後の改善・充実方策等について具体的に提案されています。報告書によると、学校現場では医師の診断書を添えず、保護者からの申告だけで対応している現状や、栄養教諭、養護教諭などに対応を任せ、学校全体での取り組みになっていないことも挙げられています。アレルギー問題では、子供一人一人のアレルギー体質を正確に把握することが対策の第一歩であります。学校現場に対して、医師が診断結果や緊急時の対応などについて記した報告書、学校生活管理指導表の提出を必須とし、学校全体での共有を求めています。正確な情報の共有が児童生徒を守るだけでなく、職員の不安や負担軽減にもつながっていくものだと思います。そこで我が町の取り組みについてお問い合わせいたします。

答弁 教育長答弁
近年、児童生徒を取り巻く

備されています。コミュニティFM放送は、地域に密着した情報、話題を誰でも手軽にリアルタイムに得ることができ、意見や情報をお互いに発信し合えるコミュニケーションツールとなっています。また、災害時には防災情報伝達に活用でき、文化・スポーツ・地域活動等の地域活性化にもつながると考えています。大島郡内の運用につきましては、ほとんどがNPO法人の運営となっております。今後の対応としては、県内コミュニティFMの情報や運営を参考にし、コミュニティFM放送を立ち上げる個人や団体がいましたら、NPO法人の立ち上げや免許申請、施設整備等のバックアップをしていきたいと考えています。

質問 大島本島の例を見ると、民間の活力が重要であると思うが、見解と今後の対応について。

答弁 町長答弁

コミュニティFMだけでなく、その他の事業においても民間の活力が重要であると考えています。コミュニティFMについては、全面的に協力、支援をしていきたいと考えています。

生活環境の変化や疾病構造の変化などに伴い、児童生徒におけるアレルギー疾患の増加が指摘されております。平成二十四年十二月に東京都調布市の小学校で、食物アレルギーを有する児童が学校給食終了後に、アナフィラキシーショック、アレルギー症状が極めて短い時間の中に全身にあらわれて生命の危険な状態の疑いにより亡くなるという痛ましい事故の発生を受けて、文部科学省では平成二十五年五月に、学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議を設置し、学校給食における食物アレルギー対応の充実方策について総合的、専門的な観点から検討し、今年三月に報告書を取りまとめました。これをもとに、各都道府県教育委員会を通して各市町村教育委員会やその所管の学校及び学校給食施設に対し、学校のアレルギー疾患に対するガイドラインに基づく対応の徹底と今後の改善充実に取り組むよう通知文を出しています。

質問 肝付町では町の広報紙作成業務を、この五月から町内のNPO法人「きもつき情報推進センター」に委託してあります。また、町の魅力を発信するインターネットサービス「きもつき情報局」の運営を、平成二十四年六月より同センターに委託して、広報紙と連動した紙面づくりができるようになっています。各市町村の取り組みを見てみると、ホームページ、広報紙、フェイスブック、ツイッター等を活用し、いろいろな情報発信を行っているようです。同時に、情報の迅速な発信を求められているのではないのでしょうか。官民のすみ分けとして、民間委託によりさらなる充実が図られると思うが、見解を尋ねる。

喜界町教育委員会では平成二十五年十二月に、各学校等に学校におけるアレルギー対応に関する調査指導を行っており、その結果及び学校生活管理指導表の趣旨、内容に沿った保健調査票によって、各

事業の民間委託について

町村は全国で九市町村、県内では肝付町だけと聞いています。民間の活力を最大限に生かし、町の活性化を図るためにも「民間でできることは民間で」を基本に考えています。が、広報紙の発行については、行政情報の提供という第一の目的や、コスト面、緊急事対応等から当面民間委託は考えていません。

今年度は喜界町図書館の開館三十周年記念事業計画も予定されています。ふるさとのために一億九千万円の建設費、二千万円の図書購入基金を寄贈し、図書館建設時には自ら来島し、図書館周辺の植栽をしてくださった長島公佑氏に、一町民として改めて感謝するものです。

答弁 町長答弁

本町では毎月一回「広報きかい」を発行し、行政情報や町のホットな話題を広く町民に提供することにより、町政への理解や関心を持っていただき、町民との協働に結びつけよう努めています。広報紙の民間委託の現状につきまして、完全民間委託している市

学校ではアレルギー疾患の児童生徒などについての情報を担任だけでなく、副担任、給食担当者、養護教諭はもちろん、全職員が共通理解を図り、緊急時の家庭との連絡、症状が重いときの救急車の手配など万全な対策、対応ができるようにしています。

本町の給食センターでは、各学校、幼稚園などと連携して、毎年、新学年年度が始まる前に、全児童生徒などを対象に保護者にアンケート調査をして、食物アレルギーの有無、アレルギーの原因食品、アレルギーの症状やその頻度などを正確に把握してリストを作成してあり、平成二十六年度の食物アレルギー疾患の児童生徒などは、幼稚園児一名、小学校児童八名、中学生六名、計十五名で、そのうち九名は医師の診断を受けています。

原因となる食品は、牛乳、アナゴ、ウナギ、サバ、エビ、カニなどの甲殻類、ピーナッツ、ナッツ類、メロン、スイカ、ナシなどの果物などです。献立にこれらのアレルギーの原因食品が含まれる場合には、アレルギー対応食として、一人一人の児童生徒などの実態に応じて、原因となる食べ物を除いた除去食や代替食を提供してあります。さらに、保

護者と共通理解を図るためにも、毎月の給食献立表を全家庭に配付して、家庭でも児童生徒、保護者が、アレルギーの原因食品を事前にチェックできるようにしており、安全確実に効率的な方策で対応しています。

これまで本町では、アレルギー疾患に伴う事故などは発生しておりませんが、今後ともガイドラインなどを参考にし、さらに食物アレルギーに関する理解を深めたり、緊急時のアドレナリン自己注射器、注射薬、商品名、エピソードに関する知識や使用方法の実技研修を実施して、教育委員会・給食センターと各学校・家庭・関係機関等が連携して、アレルギー疾患に伴う事故防止に万全を期してまいりたいと考えています。



議員 千里 内外

コミュニティFMについて

質問 現在防災無線で行政情報に類するお知らせを行って

本町で民間委託をした場合のメリット、デメリット幾つか挙げてみます。

①コストカットが最大の目的となってしまうサービスの水準が低下する可能性がある。

②受託者に公民館主事や司書といった専門的職員がいるかどうか。

③同じ教育委員会所管のもとの学校教育との連携がスムーズにいかなくなるのが危険される。

④三年から五年の契約では、事業の継続性、安定性が担保できない。

⑤社会教育法の理念から、教育施設の一つである以上、学校教育同様、公共の利益の増進を最優先に考える自治体の直営で行うほうがよいのではないか。

⑥図書館法第一七条入館料などでは、「公立図書館は、入館料その他図書資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない」と明記されていることから、ある程度収益がなければ受託者が見つからないのではないかと思われま

おりますが、各団体のイベント情報や行事の町民へのお知らせは、区長便、新聞等のチラシ、ポスターの張り出し、車を使った街頭活動を行うことしかできず、経費の面、段取りで容易ではありません。新たにデジタル整備に伴い、防災無線を町民への情報提供できるようにできないか。

答弁 町長答弁

防災無線は防災情報を町民へ伝える目的で、総務省へ電波申請を行い利用が認められています。放送できる内容については、電波法で災害情報の提供に限られており、町主催の公的行事など行政情報の広報に限り電波利用を許可されています。また、喜界町防災行政用無線局運用細則で放送内容について定めています。このようなことから、防災無線においてお知らせなどの放送はできないことになっていきます。

大島本島ではコミュニティFMの整備が終了し、積極的活用がなされているが、今後の取り組みについて。

答弁 町長答弁

大島郡内では奄美市、宇検村、瀬戸内町、龍郷町などでコミュニティFM放送が整備されています。大島郡内では奄美市、宇検村、瀬戸内町、龍郷町などでコミュニティFM放送が整備されています。大島郡内では奄美市、宇検村、瀬戸内町、龍郷町などでコミュニティFM放送が整備されています。

本町事業の「官」「民」のすみ分けについて、町長はどのように考えているのか、見解を尋ねる。

答弁 町長答弁

民間の活力を最大限に生かし、町の活性化を図るために「民間でできることは民間で」を基本に考えております。これまでも喜界町行政改革大綱や喜界町集中改革プラン等に基づき、保育所民営化、訪問給食民営化、ガーデンゴルフ場の指定管理、公園管理の民間委託、加工センター販売業務の民間委託等々実施しているところです。喜界園についても、町内で民間委託も含めて抜本的な検討をしているところですので。今後も町民サービス向上のため、より一層熟慮してまいります。



谷本 泰男 議員

喜界町の教育の現状に Q&A

質問 学校を統廃合してから二年余りがたちました。学校統廃合の経緯及び目的は、児童及び生徒数の減少により、国及び県の指導により、行財政改革の一環としてなされたと思えます。目的は、児童及び生徒たちが心身ともに健康で健やかに成長すると同時に学力の向上にあったのではないかと思います。そこで、統廃合の成果と課題について幼稚園、小学校、中学校の場合について伺います。

答弁 教育長答弁
成果として幼稚園、小学校、中学校において、適正規模の学校環境の中で、協力、切磋琢磨した学び合いや学習活動ができること、体育面では競い合いや集団競技が楽しめること、特にごく小規模校時に比べ、縦割りの異年齢集団により諸活動や行事が可能となり、集団の持つダイナミック

スが味わえるようになったことが挙げられます。特に中学校においては部活動がふえて生徒は選択の幅がふえ、十一の部活動に二百四名、八十八%の生徒が所属して楽しく活動しています。男子陸上競技は地区大会で連続優勝して、県大会出場を果たしています。課題としては、因果関係は特定できませんが、中学校において再編後に生徒指導上の問題が起きて、学校が落ちつかない状況になり、学力の低下が見られたことですが、今年四月からは生徒指導の加配教員も配置されて、新しい校長のリーダーシップのもとで心機一転、全職員が一体となって全力で教育活動に取り組み、落ちつきを取り戻しつつあります。

また各学校で、校区が広域化したために地域とのより緊密な連携にやや困難を生じていること、バス通学になったために時間の制約があり、中学校では放課後の諸活動のための時間確保が困難であるという課題も挙げられています。それぞれ創意工夫によって克服すべく努力をしているところですが、再編後の学校教育の充実を図るために、教育委員会としては学校環境整備、教材・教具の充実、幼稚園、小学校、

中学校に町独自の特別支援員、司書補、図書整理員など十八名を配置して、学力向上や心豊かな児童生徒の育成、気力・体力づくりに力を入れて、さらなる成果を上げるべく努力しているところです。

質問 中高一貫教育が実施されてから十年余りが経過しました。喜界高等学校に魅力がないのか、喜界中学校の教育の方法に問題があるのか、いろいろと問題があるように聞いているが、その成果と経過について伺う

答弁 教育長答弁
連携型中高一貫教育の推進により、中高相互乗り入れ授業、中高合同による各種検定試験、進路講演会、体験発表会、音楽発表会、夏休みに絵画講習会、町体育祭での合同練習発表などを行ってきています。

成果として、
①六年間を見通したキャリア教育による進路意識の喚起、
②中学生、高校生の交流と高校へのスムーズな移行、
③異年齢集団による合同行事を通して、コミュニケーション能力やリーダーシップの育成と学び合い、
④高校の先生の授業を受ける緊張感と学習意欲の喚起、

⑤高校と中学の教師間の研究授業参観や教科・領域等部会による情報交換や教師の指導力の向上、
⑥生徒指導上の情報交換等による中高の連携、
⑦高校での個に応じた指導の充実、
⑧中高教師間の親近感、連携の深まりなどが挙げられる。課題としては、

①高校入試の学力検査がないことから、学習に対する緊張感、競争心などが薄れること、
②中学校卒業時点での生徒の学力の把握と他との比較の困難さなどが挙げられます。また、高校卒業時点での、より高い次元での進路実現への期待の声も聞かれます。

質問 中学校卒業生のうち、約二割前後の方が喜界高校へ進学せず、島外の学校へ進学しているその理由について、また、対策について伺う

答弁 教育長答弁
過去五年間の卒業生について調べたところ、平成二十一年度は、九十名の卒業生のうち、喜界高等学校に進学した生徒が七十九名。平成二十二年度は、七十四名中六十三名。平成二十三年度は、九十四名中七十七名。平成二十四年度は、九十二名中七十二名。平

成二十五年年度、七十四名中六十名です。五年間を累計すると、四百二十四名のうち三百五十一名で八十三%となります。

島外の学校に進学した生徒の内訳は十名、二%が大島地区内の大島高校、奄美高校、大島養護学校。二十八名、七%が地区外の公立高校。三十五名八%は地区外の私立高校への進学などとなっています。その理由ですが、喜界高校にない衛生看護・福祉・工業・水産・情報などの学科への進学、スポーツ関係、より高い進路実現（大学進学等）のため、養護学校・専修学校への進学、家庭の事情、就職などに分類されます。

対策ですが、現在喜界高校の定員は普通科四十名、商業科四十名、計八十名ですが、喜界中学校の三年生の在籍数は七十三名、二年生七十八名、一年生七十七名、喜界小学校と早町小学校合わせて六年生が五十六名、五年生が五十五名となつています。少子化の影響で児童生徒数は減少傾向にあります。その中から、島外の高校などへの進学者が多いと喜界高校への進学者が二クラス分に満たない可能性も出てきます。喜界高校にない学科への進学はやむを得ませんが、それ以外の生徒につい

てはできるだけ地元の喜界高校へ進学して、学校生活を充実活性化し、さらに上級学校等への進学や就職において、より高い次元の進路実現を図らせる必要があると考えます。

診療所Q&A

質問 今年の三月に、町内の個人病院が一身上の都合により閉鎖し、町民はますます医療問題に困窮しています。私のところにも診療所を何とかしてという切実な声が五、六件届いております。行政当局にも町民の多くの声が届いているものと思えます。現在、医師確保のことで活発に動いていると聞いていますが、現在の状況と今後の見通しについて伺う

答弁 町長答弁
診療所の現状ですが、今のところ常勤医師確保の目処はまだついておりません。去る四月二十四日、私と保健福祉課長の両名で、県庁地域医療整備課並びに鹿児島大学地域医療支援センターを訪問し、診療所の医師派遣について要請を致しましたが、どちらも「今のところ医師を派遣できる余裕はない」との回答でした。



河上 弘仁 議員

工場施設Q&A

質問 本町は、日本一のゴマ生産ですが、その加工施設は現在の加工センターでは規模が小さいのではないのでしょうか。年間五十トンか

喜界島ゆかりの医師への接触も個別に図っておりますが、それぞれ事情があり、良い回答は得られていない状況です。その他、人間ドックや健診関係の病院へのアプローチも行っていきますが、常勤医師の確保には至っておりません。

そのような状況の中、当面の緊急的な対応として、非常勤の医師を確保し、七月から月に四日間ですが、診療所を開設いたします。

今後の診療所についてですが、月四日の開業はあくまで臨時的な対応で、引き続き常勤医師の募集並びに県や鹿児島大学への派遣依頼、個人的なアプローチを行い、診療所の再開に向け努力して参ります。

ら百トンのゴマを生産し、一キロ千八百円という単価で販売しております。そのゴマを加工し、ゴマ油、いりゴマ、すりゴマの加工品に六次産業化して高付加価値の商品を安定供給する施設があれば、一キロ千八百円が三倍、四倍で販売でき、より多くの外貨が獲得でき、農家の収益アップにつながり、町も潤います。島の活性化、雇用確保に役立つために、一年を通しての保管場所や加工施設はできないか。

質問 小野津の潮見園は閉館して数年たちますが、手を加えれば白ゴマの六次産業施設として再利用できるのではないのでしょうか。冷蔵庫、洗浄機、加工施設等の設備するスペースが十分にあり、加工場と隣接する小野津小学校体験学習施設を利用して、来訪者も体験できます。魅力ある高品質の加工品を製造する施設を確保し、人口減少や雇用対策、地域活性化に役立つ施設はできないか。

答弁 産業振興課長答弁
本町は、白ゴマ生産が日本一であるが、島内での加工品の製造は微々たるものでした。平成二十三年に地域振興推進事業でゴマの洗浄機を導入し

たことで、加工品として流通させることが可能になりました。ゴマを製品として販売した場合、原料用の三倍から五倍の価格で取引され、大きな反響もあり、年々処理量が増えてきています。このことはゴマの加工品づくりでの問題点であった洗浄、選別の工程が、加工センターで、一キロ三百円で受託してくれるのが主な要因だと思われま

す。ゴマを洗浄することで、いりゴマ、すりゴマの加工品等を販売することができています。さらに新しい加工品を開発することもできます。現在、加工センターでは、島内生産の約一割近くが持ち込まれて洗浄・選別されています。一年を通して稼働している状況です。利用者からは好評であるものの、利用者の増加に伴い、機械能力が伴わず、昨年は一時持ち込み制限により、多くの利用者に迷惑をかけています。今後は洗浄機械等の充実や専用の施設が必要になりつつあります。

今後は国・県の補助事業を利用して、洗浄機の増設を考えていますが、いづれにしても、町が直営で事業拡大していくことは行財政改革の観点から問題点もあるため、事業主体、場所等も含めて今後検討したいと考えています。

次の議会は、9月上旬を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

●お問い合わせ先 TEL65-1115

次回
定例会

人事

最終本会議6月24日、農業委員に田畑武八氏(浦原・66歳)を推薦した。

◆農業委員に推薦 田畑 武八氏



任期は、平成26年7月20日から平成29年7月19日

陳情の審査結果

提出者	件名	所管委員会	審査結果
奄美の黒糖史を歪める原口泉氏発言を糾す会 代表世話人 蘭 博明	知名町教育委員会編「江戸期の奄美諸島」における原口泉氏発言の削除を求めることについて	総務文教	文書配布
鹿児島県教職員組合 奄美支部喜界地区協 議長 有木 武史	少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2015年度政府予算に係る陳情書採択の要請について	総務文教	採 択

意見書の審査結果

提出者	件名	審査結果
生 駒 弘	総合的、体系的若者雇用対策を求める意見書	採 択
生 駒 弘	地域包括ケアシステム構築のため地域の実情に応じた支援を求める意見書	採 択
生 駒 弘	中小企業の事業環境の改善を求める意見書	採 択

公益に関わる意見書案が議員から提出され審議の結果、全会一致で可決され、関係行政に提出し、その実現を要請しました。

諸般の報告

議長 中島 智一

四月二十三日、県庁講堂において平成二十六年度の県政説明会が開かれ、伊藤祐一郎知事の挨拶の中、大変難しい時代を迎えつつあり、県と市町村が連携・協調して行政を展開しなければならぬと述べ、県と市町村が密接に意思疎通を図り、情報を交換しながら対応する必要があると強調しました。国と地方を合わせた長期債務残高が一兆円を超える財政状況を何とかしないと、数年のうちに破綻するのは明白と述べた上で、アベノミクスが失敗すると日本経済の再生は難しい、国・地方を挙げて経済成長を最優先させるべきとの考えを示しました。平成二十六年の主要政策として、奄美群島振興開発特別措置法に基づき創設された新しい一括交付金での農林水産輸送コストの支援事業や航路・航空路運賃軽減事業、奄美・琉球区の自然世界遺産に向けた取り組みの説明がありました。

第五十七回奄美群島市町村議員大会が五月二十二日、宇検村で開催されました。出席者は奄美群島十二市町村の議員、事務局職員、来賓に永井県議や禧久県議と本大島支庁長や各町村長等



第57回奄美群島市町村議会議員大会



提案説明をする外内議員

で総勢百八十余名が出席し、永井県議、禧久県議と本大島支庁長から来賓祝辞及び県政報告をいただきました。議員大会の提出議題は、各市町村から五件と議長会提出の二件、計七件を採択いたしました。そのほか十六項目にわたる決議文が朗読され大会を締めくくりました。喜界町・龍郷町提出議題として、外内議員による「地震、津波、一般災害を想定した学校施設について」の提案説明がありました。大会の後、国土交通省国土政策局、岡野克弥特別地域振興官による研修を開催しました。奄美群島広域事務組合各種協議会に参加いたしました。今年度から奄美群島自然共生プラン推進本部及び世界自然遺産登録推進協議会が加わり、二十七協議会となりました。

議会のうごき (6月～9月)

- 6月10日～12日 各種協議会総会(奄美市)議長
- 6月13日 議会運営委員会
- 6月18日 第2回喜界町議会定例会開会(一般質問等)
- 6月19日 常任委員会(一般会計補正予算等審査)
- 6月22日 大島支部消防操法大会(瀬戸内町)議長
- 6月24日 第2回喜界町議会定例会閉会
- 6月28日 鳥おこしまつり
- 6月30日 成田市長表敬 議長
- 7月1日 バリ・エア就航セレモニー(奄美空港)議長
- 7月14日 大島地区消防組合議会臨時会 外内議員
- 7月17日 平成27年度公立高等学校生徒募集定員策定等に係る地区説明会(奄美市)議長
- 7月26日 県議会と県民との意見交換会「あなたのそばで県議会」(奄美市)議長
- 7月29日・30日 奄振要請活動(東京)議長
- 7月31日 全国防衛省情報施設協議会総会(東京)議長
- 8月2日 全国喜界連合会との交流会 全議員
- 8月6日 第2回理事会(鹿児島市)議長
- 8月7日 市町村政研修会(鹿児島市)総務文教常任委員
- 8月20日 常任委員長研修会(鹿児島市)外内・生駒議員

ボランティア活動



中間(ナン浜)入り口



清掃前



清掃中



清掃後

7月5日議会議員・事務局16名、中間・湾青年4名計20名で中間集落公民館前の通称(ナン浜)の清掃活動をしました。県道からガジュマルのアーチを抜けると見えてくるプライベートビーチ。遠浅のビーチなので小さな子供も安心して泳げます。ぜひ遊びに来てみてはいかがでしょうか。